

# かずさの博物誌

## オカヨシガモ

～あかぬけした  
色気のある装い～

文・写真／成田篤彦

2013.2.20

自宅付近の小櫃川下流の土手を夕方の散歩コースにしている。

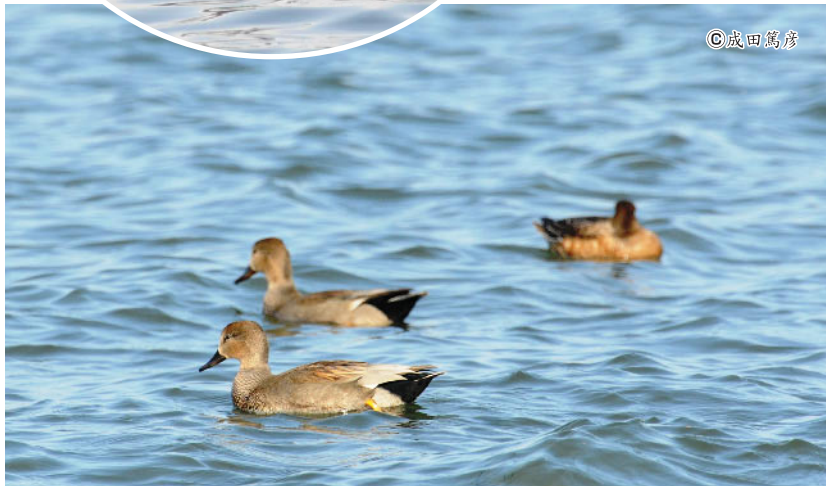
秋になるとカイツブリやオオバンなどと一緒に、決まって、二〜六羽のくちばしが黒く、全身も黒っぽいカモが小櫃川にやってきている。オカヨシガモだ。

カメラをもってヨシをかき分けて近づくと懸命に川の中央に逃げていく。決して、飛び上がろうとしない。目立たないし、すぐにお尻を向けるので、写真を撮る気もなかった。オカヨシガモは大きな群れをつくることもないし、雄雌とも羽色が地味なカモである。そのせいか、野鳥の随筆などでほとんど取り上げていない。なかには掲載していない凶鑑もある。

しかし、一昨年十一月下旬木更津の海岸で、眼の前で見ることができた。全身に灰色  
◀飛ぶオカヨシガモ。後ろの二羽が雄。翼の背に茶色  
(二〇一二年十一月二十九日木更津市)



©成田篤彦



©成田篤彦

▲オカヨシガモの雄=カモ目カモ科、マガモ大、尻の黒が目立つ(2010年11月28日木更津市)



©成田篤彦

▲着水するオカヨシガモ=右2羽が雄(2012年11月24日木更津市)

環境省ガンカモ類の生息調査で千葉県ではマガモが九〇八〇羽なのに対して、オカヨシガモは四十五羽が確認されているにすぎない。千葉県は大部分の地域では冬鳥であるが、驚いたことに北海道と本県の埋め立て地で繁殖の可能性があるという。そのためか千葉県ではレッドデータブックで一般保護生物に指定している。

上総では東京湾の沿岸や川などの波の立たない水面で少数見られる。かつては、つまらないカモだと思っていたが、穏やかな水面で物静かに冬を越している姿を毎年見ていると、秋にやって来ないと寂しくなり、いつの間にか待ち望んでいるカモになってしまった。



©成田篤彦

▲着水したオカヨシガモ=つばさの白紋が見える(2012年11月24日木更津市)

### memo

#### オカヨシガモ(丘葦鴨)

全長約四十八〜五十五cm。  
ユーラシア、北アメリカの亜寒帯から温帯で繁殖。温帯から熱帯の一部で越冬する。日本では北海道や本州の一部で繁殖する。渡来数は多くない。

上総では冬鳥。北総で少数繁殖する。千葉県指定一般保護生物。植物食で主にイネ科の草の種子や水生植物を食べ、動物質は食べない。